

(公正証書遺言例)

.....

平成××年第×××号

遺言公正書

本公証人は、平成××年×月××日、遺言者 奈良鹿之助 の囑託により、証人 ○ ○、証人 ○ ○ の立会いの下に、遺言者の口授を筆記してこの証書を作成する。

第1条 遺言者は、遺言者が有する次の不動産及び預金を、妻 奈良春日に相続させる。

① 奈良市○○町一丁目1番

宅地 200㎡

② 奈良市○○町一丁目1番地所在

家屋番号 1番

木造瓦葺2階建

居宅 床面積 1階 40㎡

2階 35㎡

③ 遺言者名義の預金の30%。

第2条 遺言者は、長男 奈良鹿男 に次のものを相続させる。

① 遺言者が所有する奈良鹿産業株式会社の株式の全て。

② 遺言者名義の預金の30%。

第3条 遺言者は、長女 藤原明日香 に次のものを相続させる。

① 遺言者名義の預金の40%。

第4条 遺言者は、本書に記載のない遺言者の財産の全てを妻 奈良春日に相続させる。

第5条 遺言者は、本遺言の遺言執行者として次の者を指定する。

奈良市高天市町××号

弁護士 ○ ○ ○ ○ 昭和××年×月×日生

第6条 遺言者は、祭祀承継者には、妻 奈良春日 を指定する。

(附言事項)

妻奈良春日には、大変お世話になったことを感謝します。これからも幸せな余生を送って下さい。

長男奈良鹿男には、奈良鹿産業株式会社を立派に育ててくれることを期待しています。また、藤原明日香は、子育てや仕事をしっかりとしてくれることを期待しています。そして、二人力を合わせてお母さんが幸せな余生を送れるように協力して下さい。

以上

本旨外要件

奈良市〇〇町一丁目1番地

無職

遺言者

奈良 鹿之助

昭和××年×月×日生

上記遺言者は、面識がないから印鑑及びこれに係る印鑑証明書の提出により、人違いでないことを証明させた。

奈良市…町…番地

〇 〇 〇 〇

昭和××年×月×日生

奈良市…町…番地

〇 〇 〇 〇

昭和××年×月×日生

以上

上記遺言者及び証人に読み聞かせ、かつ、閲覧させたところ、いずれもその筆記の正確なことを承認し、次に署名押印する。

遺言者 奈良鹿之助 ⑩

証人 〇 〇 〇 〇 ⑩

証人 〇 〇 〇 〇 ⑩

この証書は、民法第969条第1号ないし第4号の方式に従い作成し、同条第

5号に基づき本公証人次に署名押印する。

平成××年×月××日、本公証人役場において。

〇〇市〇〇町〇〇××番地

〇〇地方法務局所属

公証人 〇〇 〇〇 印